

PLANT ENGINEER

プラントエンジニア

新世代エンジニアのための技術&情報マガジン

特集

付加価値を生む最適資源配分 —自動化依存の生産性向上の限界—

トピックス

生産競争力強化を目指したIoT時代のエンジニアリングによる困難への挑戦
—スマートO&Mシステムの構築—

連載

パリ協定下でのCO₂排出削減の決め手 エクセルギー活用法

安全衛生情報 最前線

保全技術者として知っておきたい法令の話

これでいいのかTPM®

からくり事典を紐解けば—「機構学」入門—

身の回りを見つけるメカトロ雑学

サステナブルなモノづくりのために

発行：日本プラントメンテナンス協会
発売：ジェイマック(日本能率協会コンサルティング)

6

Vol.49

No.6

2017

JUN

地上設置型フート弁

スモレンスキ フートバルブ SG 消防評定仕様

Presented by (株)イシザキ

資料請求番号-801

ココが売り!

- ★水中に設置しないので、サビや固着による落下を防止できる
- ★地上にあるので、短時間で簡単に点検・メンテナンスが可能

水中の吸水管末端に設置されるのが常識だったフート弁(逆止弁)を、地上設置に置き換え、メンテナンスに革新をもたらしたのが地上設置型フートバルブだ。スプリングとパッキンで止水するので、止水性が高く、地上設定でも落水しない。異物の噛込みなどで漏れが発生した場合でも、地上でメンテナンスできるので作業時間が早く簡単にできる。

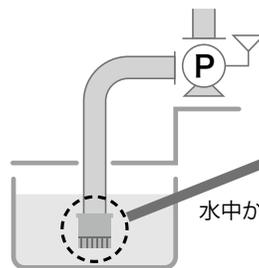
ただ、これまで地上設置型フートバルブを消火ポンプに設置検討する場合、消防法の関係から所轄する消防署の判断が必要で、残念ながら、ほとんどの現場で設置不可の判定が下されていた。

しかし、今回、性能評定により、従来の吸水管末端に設置するフート弁と同等の機能・性能を有することが正式に認められ、消防防災用設備機器の性能評定(消防評定)を取得した。これにより、消火ポンプへの導入検討が進むことだろう。

地上設置型フートバルブと従来のフート弁との大きな違いは圧倒的な低損失で、設置場所を選ばないこと。既設のものとの交換する際も、バルブの抵抗が低いので、すべての現場で設置が可能。新設の場合は、無料の吸上げ算定サービスで設置の可否を判定できる。

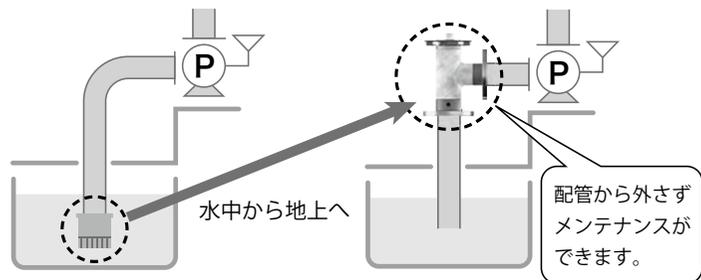
また、デジタルセンサーで圧力を常に監視できるから安心だ。センサーは見やすいデジタル表示で、点検時の確認も簡単。万が一、落水した場合も、異常を検知して警報を発する。メーカーでの実証試験では、通水状態を180日放置していても一度吸い上げた水は落水せず、ポンプ再起動後もスムーズな通水が確認された。

末端フート弁設置例



水中から地上へ

スモレンスキフートバルブの設置例



これは、ストローの原理と同じで、スプリングで止水するので、空気が入らず落水しない。

もちろん点検・メンテナンスも簡単。水中に設置しないためサビや固着自体が発生しにくいので、メンテナンスも楽々。工具レスで脱着可能なクランプによりメンテナンスが容易に行え、弁体は樹脂製で軽量のため、少人数・短時間でメンテナンスを終わらせることができる。

●問い合わせ先：株式会社イシザキ
〒146-0085 東京都大田区久が原 5-29-14
TEL：0120-1439-50
http://www.ishizaki.biz/s_18.html